

Report

全国各地で本格的な実践が進むGIGAスクール構想。
意欲的に推進している自治体・教育委員会をレポートします。



御前山小学校3年生の道徳授業で、自分自身の考えや学びの振り返りにタブレットの掲示板ソフトを活用。

2020年に就任した鈴木定幸市長が市政の重点項目として学力向上を掲げる常陸大宮市(茨城県)。児童生徒の学力向上に何が必要か、学びに向かう集団づくりのために、緻密な現状分析を行い、ICTの効果的な導入により授業改善を目指す同市の取組について、教育委員会学校教育課の皆さんにお話を伺いました。

多様なデータ調査を組み合わせ、児童生徒の実態を客観的に把握

学校教育のなかで郷土愛を育み、地域とのつながりを大切にした教育活動を営む「郷育立市」を宣言している常陸大宮市。同時に、これからの社会で広く活躍する自律した人材育成にも力を入れ、教育振興基本計画の第一に「学力向上」を掲げている。

「学力とは社会に出たときのチケットだと考えています。学力を上げることで視野が広がり、子どもたちの将来の選択肢が増えることにつながるからです」(課長補佐 長嶋健一氏)

学力向上は市政の重点項目としても掲げられている。その実現のために、2022年度に「確かな学力育成プロジェクト」が教育委員会に設置された。プロジェクトには「学級づくり・集団づくり部会」と「授業づくり・授業改善部会」がある。

「私は授業づくり・授業改善部会を担当していますが、子どもたちが学ぶ基盤となる学級が安全・安心で居心地のいいものでなければ、授業改善も、ひいては学力向上も図られません。まずは良い学級づくりを考えることから着手しました」(指導主事 宮田英和氏)

最初に行ったのが、データによる徹底した現状分析だ。市内の全小中学校でhyper-QUテスト(子どもたちの考え方の癖や、学級の満足度などを測る調査)を実施。また、標準学力調査のNRT(集団基準準拠テスト)とCRT(目標基準準拠テスト)、NINO(認知能力検査)を行うことで、子どもたちのさまざまな学力や思考をデータ化した。これらのテストを同時に導入している自治体は多くはなく、茨城県内では常陸大宮市が初めてだという。

「保護者にもご理解いただきやすいよう、本市では学力の3要素を『学力の樹』ととえています(志水宏吉著『学力を育てる』より引用)。知識・技能が“葉”、思考力・判断力・表現力等が“幹”、関心・意欲・態度が“根”です」(宮田氏)

教員間の関係性の強化、児童生徒の自己肯定感醸成にもICTが大きなツールに

ICTの利活用は教員によってさまざまだが、教育委員会では教材や指導案、授業で使いやすいソフトなどを共有できる「ICTポータルサイト」を2023年に開設した。

「まだできたばかりですが、先生方に有効に活用いただけるようサイトの周知を進めています」(主幹 大貫真利江氏)

「授業指導に長けているベテランの先生たちが作った教材をたくさん入れてもらって、若手がそれを利用する循環が生まれることが理想です」(長嶋氏)



教育委員会が開設した「ICTポータルサイト」。ICT活用事例の情報や授業で使える素材を共有したり、先生たちが情報交換できるチャットルームなどを用意している。

「実は現場では若手とベテランの知見の好循環が進んでいて、ICTの使い方は若手の先生が提案して、ベテランの先生は授業改善や指導方法のポイントなどを提案する。若手とベテランがお互いの意見を交換しながらWIN-WINの関係性で授業をつくり上げていく姿が見られる学校もあって、こちらにとっても学びになりました。それをポータルサイト上でも行えると、学校を超えたつながりとなって全市に広がっていくのではないかと期待しています」(宮田氏)

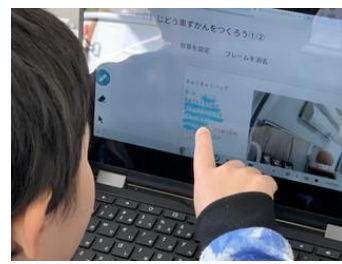
「ICTがベテランと若手をつなぐ大きなツールになっていると感じています。また、学級づくりにおいても、人前ではなかなか話せない子どもが、タブレットの共有機能や付箋機能を使えば自分の意見や思いをクラスの仲間に表出できる場が多くなったと感じています。自分の居場所を見つけられて、自己肯定感の高まりにも役立っているのではないのでしょうか」(坏氏)



グループ内で自分で作成したスライドを基に説明する大宮西小学校2年生の国語の授業。



御前山小学校5年生の算数の授業で、タブレットに記入した自分の考えを説明し合い共有している場面。



大宮北小学校1年生の国語の授業。タブレット上のホワイトボードのマーカーやメモ機能を活用して、自分の考えを整理している様子。

さらに教育委員会では、導入しているスタディサプリやAドリルの授業現場での活かし方を提案する「ICT活用マニュアル」も作成している。

「我々から先生たちにICT活用の可能性を示しますが、現場では紙の教材がなくなるわけではないと思います。従来の教材とICTのベストミックスは各先生に任せ、最適なかたちを試行錯誤してもらいたいと思っています」(長嶋氏)

学校でのICT利活用と同時に進めているのが、家庭学習での利活用だ。「確かな学力育成プロジェクト」では、授業づくりと学級づくりと共に家庭学習を柱の一つに掲げ、三者の相乗効果による学力向上を目指している。授業だけでは知識の定着を図ることが難しいため、家庭学習の重要性を保護者にも広報している。

「宿題だけでなく家庭学習で何をすれば良いか各ご家庭でも悩むところですので、そこでスタディサプリやAドリルを活用していただければと思っています。タブレットで講義動画を見たり、ドリルを解くことで楽しく学ぶことをきっかけに、家庭学習が習慣化していくことが大事だと考えています」(指導室長 関 好美氏)

常陸大宮市教育委員会 2023.06.06版

スタディサプリ活用イメージ集

スタディサプリをどう活用していくか、授業や家庭学習・家庭学習の中で、スタディサプリをどのように活用するか、シーン別にまとめました。活用したい授業や授業の中で活用イメージを、ご活用ください。

スタディサプリ活用イメージ一覧

【表の使い方】 活用したい授業や授業の中で活用イメージを、ご活用ください。活用イメージがない授業や授業の中で活用イメージを、ご活用ください。

活用イメージ	活用したい授業		活用イメージ		活用イメージ	活用イメージ	活用イメージ
	活用したい授業	活用イメージ	活用イメージ	活用イメージ			
1 授業の導入に活用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 授業の展開に活用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 授業のまとめに活用	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 授業の導入・授業内容の定着促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5 授業の導入・授業内容の定着促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6 授業の導入・授業内容の定着促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
7 授業の導入・授業内容の定着促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

教育委員会が作成し共有している「スタディサプリ活用イメージ集」のインデックス。授業や家庭学習のどんな場面で活用できるかの具体例を提示している。

常陸大宮市での学びを、将来子どもたちが誇れるような教育を

今後もさらにICTの利活用推進に期待がかかる常陸大宮市。教育委員会の皆さんに今後の展望について伺った。

「とにかく良いと思うツールは入れているので、先生たちに活用してほしいですね。この市に住む保護者の立場として自分自身の子どもにも、良い教育を受けて育ってほしいという思いがあります。自分ごとのように市の児童生徒たちのことを考え、教育環境づくりを考えていきたいです」(大貫氏)

「本市の子どもの未来のために、学力を底上げしていくためには、使えるツールは何でも導入する覚悟でいます。それを現場の先生方に活用してもらえるよう尽力していきます」(長嶋氏)

「私自身にも小学生の子どもがおり、市内の学校に通っていますが、最近はタブレットを開いて楽しそうに勉強をやり直している姿をよく見るようになったのです。帰宅後に授業の復習や自分の学びをタブレットで行う子どもたちが増えていったら良いと思います」(坏氏)

「子どもたちには自分が育った市で受けた学びを自慢できるようにしてほしいと願っています。そして、予測困難な時代のなかで、どんな有事の際にも学びを止めないシステムを常につけておかねばならないとコロナ禍で痛感しました。昔は学級閉鎖があると教員がプリントを印刷して配付しに行っていたのが、ICTがある今は自分のデスクから宿題を配信し、子どもたちの進捗状況も瞬時に確認できます。そうした教育システムを常に進化させていくことが必要だと思います」(宮田氏)

「ICTを活用することで友達の意見を取り入れながら自分の意見も発信できます。1コマのなかで自分が主体的に関われる時間が増えることで、授業が楽しくなります。『関わる』ことが大事なので、そのツールとして子どもたちにはどんどん使ってもらい、先生方にもその視点で活用してもらえたら良いですね」(関氏)



教育委員会が作成し共有している「スタディサブリ活用イメージ集」のインデックス。授業や家庭学習のどんな場面で活用できるかの具体例を提示している。

DATA

【自治体プロフィール】

- 人口 3万7400人(2023年11月1日)
- 公立小学校 11校 児童数1555名
- 公立中学校 4校 生徒数803名

茨城県の北西部に位置する県で2番目の面積の市。その60%が森林原野が占める緑豊かな自然環境に恵まれている。旧石器時代や縄文時代の遺跡から発掘された歴史的文化財が多数所在する。

【GIGAスクール環境】

- 導入端末 小学校・中学校/Chromebook
- 児童・生徒用はWi-Fiモデルを導入。
- Google Workspaceのほか、講義動画の「スタディサブリ」やAIドリルソフトを導入。市教委側からだけでなく、現場からの要望で導入ソフトを検討し、より学校の実態にあった学習環境の整備に努めている。

発行：2024年1月 ※取材対象者の所属などは取材時のもの
取材・文／長島佳子

